

…好きだから。

好きなことしてたら、今になってた。



the pioneer 咲く人

匠の技を伝え学び、常に新しい道を切り開く事で笑顔の花を咲かせる開拓者-Pioneer-。今と未来のTSSを開拓する人物にせまるこのコーナー。第11号は、長井秀琢氏に登場してもらう。



長井 秀琢
Shutaku Nagai

納得がいかなかったり、疑問があったりすると、とことん突き詰める仕事人。だけど、仕事以外ではいつもニコニコ、気配り上手で優しい一面を持っている。

仕事と家庭の両立で戸惑うこともあるけれど、それでもやり遂げる姿勢には、強い責任感が漂う。「良いパパじゃないよ(笑)」と本人は言っているけど、とつても家族思いなお父さん。

(情報提供 篠原さん・榊原さん・許さん)

「良し悪し両方の意味で、それだけを見る様になる。だから、違う方向で考えることが必要になるんだよ。つまり、いろんな機械や人の仕事を見る。それを頭によぎらせて、自分の視点と対比させて、もつと良いものを生み出す鍵にするってこと。でも正直、『前はもつと柔軟だったのに…』って思うことはある…固定概念だね。やってる時は、精一杯なんだけどね。」

「あと、夢に出るぐらい一日中考えるね。今はそこまで行き詰まることは少ないけど、そうして学ぶ部分ってあるから。その時は上手くできなかったり、後悔することもあるかもしれないけど、それを必ず次に活かしたり、取り返す様にすれば良い。その積み重ねで、要求されたことを、如何に実現させるかそれが大事だと思う。」

未来も 今と変わらずに

まだまだ続いていく、長井の歩み。彼が描く未来とは―。

「営業みたく口が上手い訳でもないし…機械以外は、できないんじゃないかな。ずっと続けられれば良いよ。ずっと、機械に携わっていられたら。」

取材中、随所に父親の一面を覗かせた長井。最後に「最近のお父さんエピソードは？」と伺ったところ…。

「**■**の時は、まだ上の子だけで小さかったけど、もう二人とも大きくなって、かまってもらえない(笑)。家では、ビールとテレビが必需品…グータラお父さんで、怒られてますよ(笑)」(敬称略)

札幌から故郷に

「…好きだから。子供のころから好きなことしてたら、今になってた(笑)。」

一つを追求することと、色々な経験を通して見識を付けることは、どちらが良いというものではない。ただ一つ確かなことは、『どちらも自分が納得する理由が無ければ、力にはならない』ということ。機械“と言う一つの事柄を選んだ理由をこう語る長井秀琢とは、一体どういう人物なのだろう―。

今から二十五年前、長井は札幌で、建築用サッシのCADプログラムやプロッター(図面データの出力装置)の販売サポート・補修をしていたが、その会

辞めたいと思ったことは…ある

社を退職。故郷の朝日町に帰っていた。不安と期待交じりで職業安定所に登録した直後、当時の第三工場長 川上氏から電話が。そしてすぐに面接、入社を決めた。

TSSの設備は、企業のお客様が購入されるので、設置作業(立上)も、お客様の工場で行うことが日常。もちろん長井も立上出張が多いが、中でも

「辞めたい…」と思ったと言う。慣れない場所での作業は、ただでさえ神経を遣うもの。さらに疲労の蓄積と設備の不調もあり、作業は難航した。

如何に自問自答し

人の望みを実現させるか

電気設計者の仕事は、『設備設計者が望む動きを実現させること』と断言する長井。しかし、それをこなせる様になればなるほど、力を付けければ付けるほど、ある状態に陥っていくと言う―良く言えば「びたむき」、悪く言えば「盲目的」。